

## No.5「美しい言葉遣い(ことばづかい)を身に着けよう」

Q 1 : 「美しい言葉遣い(ことばづかい)」はなぜ必要なのですか。

- A : (1) 敬語表現を含む美しい言葉遣いは、コミュニケーション、人間関係を築き上げる基本中の基本、ことばは心、だからです。
- (2) どんなに学校の成績が優秀でも、どんなに難しい学校に入学しても、どんなに難しい試験に合格しても、ぞんざいで、乱暴な言葉遣いをし続けたら、他の人とのコミュニケーションはうまくできず、人間関係を築き上げることは困難です。
- (3) ですから、教科の勉強や受験勉強と、同時併行して、敬語表現を含む「美しい言葉遣い」を少しずつでも身に着けることが大事です。



Q 2 : どうすれば「美しい言葉遣いを身に着けること」ができますか。

- A : (1) 「標準的な言葉遣い」で書かれている、開倫塾のテキストや学校の教科書で学ぶことができます。
- (2) 開倫塾や学校の先生方の言葉遣い、TV やラジオのアナウンサーの言葉遣いで、美しいと思われるものがあれば、大いに参考にしてください。
- (3) 詩、短歌、俳句、小説、エッセーなどの「名作」と呼ばれる作品は「美しい言葉遣い」であふれています。
- ① 新聞や本を、折に触れてたくさん読み、「美しい言葉遣い」を大いに学んでください。
- ② 特に、「詩集」はおすすりめです。感動あふれる、「美しい言葉遣い」の集まりが、詩集といえます。気に入った「詩」は空じていえるまでにしましょう。皆様の好きな詩人はだれですか。私は高村光太郎の「智恵子抄」という詩集が大好きです。アメリカ人では、「ポー」という作家の詩が大好きです。
- ③ TV やラジオの出演者の中には「ウケ」ることをねらい、「美しい言葉遣い」からかけはなれた言葉遣いをする人もいます。あまり参考にしないようお願いします。面白がってまねをし過ぎると、それが身に着いてしまいますよ。



Q 3 : 人とお話をするときのポイントは何ですか。

- A : (1) ①「傾聴(けいちょう)」、「人の話によく耳を傾ける」ことです。「人の話は最後まで聞くこと」が大事です。
- ②では、「延々(えんえん)と途切れなく話し続ける人」の話は、どのように聞

いたらよいか。2～3分、長いときには5分以上相手が一方的に話し続けたら、「ちょっとよろしいですか」といって、聞きたいことや、こちらから伝えたいことがあれば、聞いたり、伝えたりするとよいと考えます。

③ただし、「礼を尽(つ)くす」ことが大事です。

(2)①会話は「ことばのキャッチボール」です。

②相手が1～2分話したら、相手のお話を踏まえてこちらも1～2分話す。

相手が4～5分話したら、相手のお話を踏まえてこちらも4～5分話す。

③話すときには、できるだけ「ていねい」な言葉遣いで、相手に対して尊敬(Respect/リスペクト)の心をもってお話をすることを心掛けましょう。



Q 4 : 「美しい言葉遣い」の反対は何ですか。

A : (1)それをいわれたら、相手が嫌な気持ちにする「言葉遣い」です。

(2)「親しき中にも礼儀あり」です。大切なことを伝えたいときには、身近な人ほど、親切・ていねいでわかりやすい、「言葉遣い」を心掛けましょう。

(3)特に、相手がよく知らないことを伝えるときには、できるだけわかりやすい、簡単な言い方(表現)で伝えることも、「美しい言葉遣い」と考えます。

Q 5 : 相手の意見や考えに反対の意見を述べるときにはどうしたらよいのですか。

A : (1)まずは、「相手が考えていることを自分はちゃんと理解していること」を伝えること。

(2)その上で、「あなたはそう考えるかもしれないが、私はこう考える」と、自分の意見を述べるのが大切です。

(3)頭から相手の意見や考えを否定することは、相手の立場を尊重することにならないので、できるだけ避けましょう。

\* 「美しい言葉遣い」に出会ったら少しずつメモをしておき、参考にしましょうね。



以上

